

今年は豊作!? 米作況を占う

1月11日(水)は、農作業の仕事始めにあたる「農はだて」の日。ひころの里「松笠屋敷」では、入谷郷土史研究会の皆さんによる「作試しさくぢしめ」が行われました。

昨年末に、米の上に3個の餅を並べ、その上に伏せておいた臼うすを開き、餅についた米粒の様子で、稲作の作柄を予想するものです。

開いてみると、秋の時期を示す餅に米がたくさん付いていたことから、「今年は天候に恵まれ、秋の稔りが期待できそうだ」と、研究会の皆さんは話していました。



ささよ「大漁唄い込み」

1月15日(日)、歌津寄木地区で小正月の行事「ささよ」が行われました。「ささよ」は地区内の男子小中学生が法被姿ほっぴで大漁旗を先頭に各家庭をまわり、玄関先で「大漁唄い込み」を歌い、大漁と航海安全を願う伝統行事です。11名の小中学生が参加し、元気な歌声を披露しました。

アンケートをもとに地域の防災対策を!

東北大学災害制御センターが昨年12月に志津川地区市街地を対象に行った「高齢者の避難支援に関するアンケート」の調査結果報告会が、1月22日(日)、役場本庁会議室を会場に行われました。

報告会では、津波工学の第一人者・今村文彦教授から最近の地震津波対策の動向などの紹介があり、続いて学生からアンケート集計結果報告がありました。

会場には、アンケートの対象となった地域の行政区長・民生委員・消防団の皆さん、消防署員など約50人が集まり、調査報告などに熱心に耳を傾けていました。

また、地域の防災課題などを話し合う場が設けられ、出席者から活発な意見が出されました。

